

## 地域社会と共に

横浜ゴムグループの事業活動は、展開している地域社会にさまざまな側面で影響を与えます。地域社会とコミュニケーションを取り、地域の課題や当社グループの与える影響について認識したうえで、地域社会の期待に応えていくことは、事業活動を継続する上で大変重要です。当社グループ自身がその地域におけるステークホルダーの一員として地域社会と利害を共有していることを認識し、地域社会の課題解決と発展のために努めていきたいと考えています。

### 基本的な考え方

横浜ゴムグループでは、「横浜ゴムグループ行動指針」において「地域社会との共存共栄を図ります」と宣言し、社会の一員であることを忘れず、社会との共存共栄を図り、ステークホルダーとの信頼関係を構築すること、従業員の社会貢献活動を支援し、従業員が積極的に社会貢

献活動に参加する社風を形成することを基本姿勢としています。

グローバルに事業を展開する横浜ゴムグループは、環境や法律、文化、習慣、経済などの面で、地域社会と良好な関係を築くことに努めています。

### YOKOHAMAまごころ基金

#### ● 従業員の「まごころ」をかたちに

従業員によって2016年に設立された「YOKOHAMAまごころ基金」は、基金の趣旨に賛同する従業員(会員)から積立金(毎月100円~の希望額)を集め、社会課題に取り組んでいる団体への支援や、災害発生時の義援金などの寄付を実施しています。寄付は、横浜ゴムからも基金と同額を寄付する「マッチングギフト」という仕組みを採用しています。

2021年12月末現在、加入率は全従業員数の約44%となりました。

#### ● 2021年度支援実績

2021年の支援実績合計は、4,898千円(災害義援金を含む)となりました。

主な支援先は以下の通りです。

- 特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity
- 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
- 令和3年7月伊豆山土砂災害(静岡県熱海市)



Japan Hair Donation & Charityが提供している医療用ウィッグ一式

### 国内拠点における取り組み

#### ● 新型コロナウイルス感染拡大に対する医療支援

平塚製造所では、2021年3月、神奈川県に対し乗用車用タイヤ100本を寄贈しました。寄贈したタイヤは、県内21カ所の保健所施設で使用される新型コロナウイルス罹患者の搬送専用車両に装着されました。YOKOHAMAまごころ基金からもタイヤ交換費用の一部として10万円を支援しました。

三重工場では、2021年6月、三重県に対し乗用車用タイヤ40本を寄贈しました。寄贈したタイヤは、三重県の新型コロナウイルスワクチンを病院や保健所などの接種会場まで搬送する公用車に装着されました。



神奈川県の新型コロナウイルス罹患者搬送専用車両へのタイヤ装着作業

海外拠点における取り組み

● 老君山プロジェクト(中国)への協賛

横浜ゴムの中国における統括子会社である優科豪馬橡膠有限公司(Y-CH)では、2011年から継続的に中国の雲南省麗江市老君山自然保護区内で進めている生態系保護プロジェクト(老君山プロジェクト)の協賛を行っています。

老君山は、2003年に世界自然遺産に登録された豊かな自然に囲まれた山岳地帯で、老君山プロジェクトは、これまで自然保護区内の森林伐採でしか生計を立てられなかった村を農畜産物生産経済へと転換することで生態系を保護しようというユニークなものです。

Y-CHIは、NGO組織「麗江健康環境研究センター」と連携して同プロジェクトを支援しており、農畜産物生産への転換に必要な融資を行う「村バンク」の設立、設備の寄贈、販売組織の立ち上げ、子供の教育支援など村民が生産物を収益に変えることができる仕組みを整備してきました。また、老君山に暮らす少数民族の僱傭(リス)族

の民俗文化伝承にも注力しており、伝統織物と民族楽器の製作工具を提供し、講習会の実施や民族楽器の寄贈なども行っています。

横浜ゴムグループは、老君山プロジェクトと民族文化伝承を支援し、環境、経済、文化がより良く循環することを支援していきます。



「村バンク」の様子

● 学校への教育支援(インド)

横浜ゴムのインドにおけるタイヤ製造子会社ATC Tires Pvt. Ltd. Tirunelveli Plant (ATG-TN)では、複数の学校のインフラ整備やデジタル教育の支援を行っています。



インドでの小学校への教育支援

● 災害支援(タイ)

横浜ゴムのタイにおける天然ゴム加工子会社Y. T. RUBBER CO.,LTD.(YTRC)では、2021年度近隣の村において洪水で被災した住民 に対して水と米を支給するなどの支援を行いました。



タイでの洪水被害を受けた地域への救援物資の配布

TOPIC

「森の防潮堤」植樹が完了

YOKOHAMA千年の杜活動の植樹ノウハウを活用し、東日本大震災復興支援活動の一環として、岩手県大槌町の小鏡川沿いで2012年から進められてきた「森の防潮堤」づくりが2022年4月に完了しました。

植樹会は、大槌町の地域住民や大槌学園の児童・生徒の他、横浜ゴムからもボランティアを募り、コロナ禍による中断をはさんで9回にわたり行われてきました。地元大槌や東北で採った種子から育て植えられた苗は約300メートルの区間に計2万5千本に達し、最後の植樹に参加した子どもたちが生まれた2012年に植えられた苗は高さ5mをゆうに越え、濃い日陰ができるまでに成長しました。

「平成の杜」と名付けられた「森の防潮堤」は、土台に震災のがれきを敷き、土をかぶせて高さ約5m、幅約15mに造成。生物多様性保全の観点だけでなく、木が大きく成長することで津波のエネルギーを減衰させることが期待されています。



横浜ゴムでは、今後も地元ボランティアらと草取りなどを続けて環境整備を進めていきます。